



海岸南部端には干拓によってその公有水面が半分へったとはいえ約50haの水面とそれをかこむ湿原は270haもあるトウツル沼がある。当町最大の湿原地帯である。国道より1kmほど離れた人の往来もほとんどなく海岸に面した保安林を通して1日何回かの汽車の音のみである。沼の周辺はイワノガリヤス、オオカサスゲ、エゾアブラガヤなどが密生し水深もあまりないため水草が沼の半分ほどをおおっている。そんな中にカルガモの大群や、マガモ、バン、オオバン、コガモ、ヒドリガモなどが多く、春と秋の渡りにはヒシクイやオオハクチョウも途中羽根を休めて行く。又タンチョウも今まで2回立ち寄った報告がある。又これら水鳥やコイ、ウグイ、フナなどをねらって秋に渡来するオジロワシ、ミサゴの水中捕獲も観察出来る。沼の北側は砂丘が広がっている。シギ、チドリが盛んにエサをついばみながら行ったり来たりしており一部繁殖もしている。この周辺の観察は保安林に入っていく事によって、トビの営巣も見られ、エゾアカゲラ、エゾコゲラ、コアカゲラなどがけたたましい音をたてて虫さがしをしている。

防風林をぬけると釧網線をまたいで斜里海岸草原群落、つまりお花畑に出る。お花畑といっても現在花ではエゾスカシユリが見られる程度になったところであるが、筆者が来町した昭和35年頃は、すばらしいところであった。見わたすかぎりユリの花が咲き、ダイダイ色のジユウタンが敷かれたような錯覚にとらわれた記憶がある。当時、その上でお花まつりといって舞台までつくり臨時に汽車をとめ観光客をはこび、帰りには手にもてないくらい花をかかえて帰ったと語られている。当時の事であり踏つけ根をぬいたのである。現在は見るかげもなく風雨に打ちひしがれた便所の跡が残っているだけだ。

しかしそんなところには人が入らなくなってからは渡りの小鳥達が寄ってくる。秋深くなるとベニヒワをはじめアトリ、マヒワなどが枯草の実にぶらさがっている。12月下旬になると北国からの珍鳥ユキホオジロが20~30羽の群をつくりベニヒワの群と移動しながら、ハマニンニクや、エゾノコウボウムギの実を盛んにつついて食べているのが観察でき、3月初旬頃までいる。オホーツク海岸線は長くトウツル沼より知床岬へ続くが、砂浜は峰浜の市街中心部を流れるシマトッカリ川で終る。その間5つの川によって切られるが、それぞれの区域に特長らしいものがある。

斜里川は斜里町最大の川で川口も大きく、現在



日本で最初の記録となったヒメクビワカモ  
(1974年11月15日)

漁港として姿を変えようとしているが、水量の豊かさは厳冬の中でも全面結氷は少なく海鳥の冬の餌場であり休憩の場になっている。斜里川河口に魚類の加工場がありほぼ年間通して汚水が川にそそがれるため浮遊物を食べにオオセグロカモメ、ミツユビカモメ、ユリカモメ、シロカモメ、キンクロハジロ、ミミカイツブリ、コオリガモ、ズガモ、マガモ、クロガモが見られる。

中でも1974年11月15日日本で初めての記録ヒメクビワカモメもこの地の観察である。他の河川が結氷するとオオハクチョウの一团も狭い開水面に下り他の水鳥達といっしょに餌をついばんでいる。この海岸近くは海産乾場もありそれをねらいハシブトガラスやハシボンガラスが多くその群は500羽を越える数で、何グループにもわかれている。

## ②以久科原生花園~ヌカマップ川 (海上・海岸)

斜里川をすぎると以久科原生花園に入る。ハマナスを小灌木としてエゾスカシユリ、ハマフウロ、キバナカワラマツバ、ノコギリソウ、スズランなどが群生しており、シマアオジ、ベニマシコ、オオジュリン、ノゴマ、コヨシキリ、エゾセンニユウ、ホオジロ、アオジ、モズなどが自分の縄張りを主張するかのように声高々と鳴き競っている。開花期には人がどっと入るので一時なりをひそめるが時期がすぎると巣立ちしたひなをつれていく何種類かの小鳥に会える。

この草原の南は潮害防備林が続く、斜里市街の東5線附近からほぼ450mの巾で峰浜までつづいている。樹種はミズナラ、ダケカンバ、イタヤカエデ、シナノキ、センノキの広葉樹が主で峰浜地区に若干のトドマツが混交している。海岸に面して

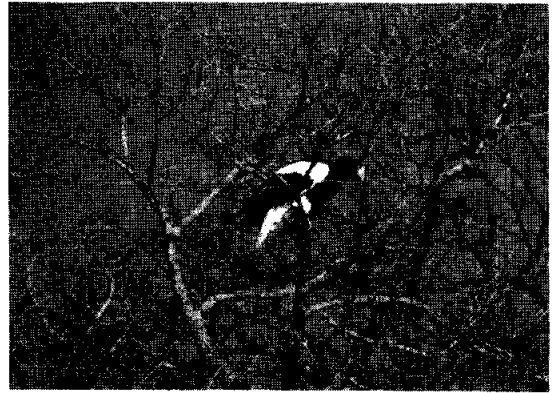
いる樹木は海から山の前へ頭をむけその潮風の強さを語っているが、この林の中には数多くの野鳥が繁殖している。アカハラ、アオジ、クロツグミムクドリ、コムクドリ、ニュウナイスズメ、カラフトカワラヒワ、シメ、ホオジロ、アリスイなどが見られ、早朝海より吹き上げる霧が林をつつみ日がやっとあたりの輪郭を浮きぼりにする頃盛んに鳴き出す、林の奥の大木にはキツツキの穴を利用してアリスイが子育てをしていたり、トビがそまつな枯枝を組んで抱卵していたり、突然すぐ脇の繁みからアカハラが飛び出したり遠くではキツツキ類がけたたましい音をあたりにこだまさせたり小鳥達の戦う鳴き声とにぎやかな林である。それを押し殺すようにアオバトが鳴きツツドリが合いづちを打つ。カラ類が樹々を飛びまわっている。

峰浜のお花畑の近くに河川の切替によって出来た大きな沼がある。巾30mほどの狭い沼であるが砂丘の中に長さ1kmほど林に沿ってあり、カシワ林からすぐ観察出来る事はシギ、チドリの判別には最適である。春、鴨類の渡りで始まりオオハクチョウの中継地として重要なポイントとなっている、夏季は斜里前浜同様、ノビタキ、ノゴマ、シマアオジ、ベニマシコ、オオジュリンが沼のまわりの草原で見られ冬季はユキホオジロ、ベニヒワなどが枯草の実を求めて海岸を移動してここまで来る。

ここで原生林的防潮林は終りアヤメ原そしてクロユリ、アキカラマツなどの草原はノビタキのランドでありヒナをつれた親子が見られるのも楽しい。峰浜シマトツカリ川より砂浜と玉石原がはじまりこの玉石をハクセキレイがせわしげに動き廻っている。

峰浜市街の中心を通りウトロまで続く国道334号線が海岸を走っているが、この両側のカシワ林からカラ類が飛びだして来て車の前をあぶなげに横切る。渡りのツグミなどは舗装道路に出て来て、暖気に雪がとけたたまり水を飲みに出てくる。

ヌカマップ川は日の出地区に入る手前である。この川はヤマセミとカワガラスの飛行する川で、川に飛び込んでイワナを長い嘴でつかまえるヤマセミの仕草が見られる。カワセミは川口で飛ぶ宝石といわれる美しい姿。エメラルド色が一直線に上流に向かって飛んで行く。しばしその跡を追うと黒一色のカワガラスが向ってチーチージョイジョイと呼きながら水中を走り小さい川虫をつつき出して嘴にくわえてくる。



オオワシ (1979年2月)

### ③オシンコシン～ウトロ (海上・海岸)

国道は海岸と崖を背にウトロまで進むが、背後の林は冬期オオワシ、オジロワシの渡来時の宿り場となる。この海岸最大の展望地はオシンコシン岬である、冬期の雄大な飛しようは11月の初めに観察が出来それから1月初旬にかけピーク時を向かえるその年の流氷、風、海流などによって大巾に増減するが、流氷が弓状の型に南下してくる頃には、一日100羽以上のカウントもありうる。しかしそれも長期間続く事はなくせいぜい3日～8日間ぐらいで下降線をたどりその後は10羽から20羽ぐらいしか見られなくなる。最盛期には崖淵の1本の樹にオジロワシ、オオワシが、一諸に5～6羽止まっている事もある。オジロワシは留鳥のものも一部はいるが99%渡り鳥でありグループをつくる事をしないが、オオワシは3羽から12羽ぐらいまでのグループで行動する事が多い。

流氷が接岸し海が開かなくなってしまうと渡りのコースはスケソ漁に、にぎわう羅臼側へとうつる。餌は主に魚で、捉まえては流氷上や樹、岩の上に運び食べる。大型の餌ではアザラシの子供なども襲われ白い流氷上を血でそめ、腹わたを引っ張り出し、その返り血をあびて嘴や胸を赤く染めている姿は鳥の王者にふさわしい風格が感じられる。

しかし3月も中旬を迎えると流氷も動き出す。この頃になると本州方面まで渡ったものも北への旅立ちを始める。海明をまっていたかのように来るのがウミウで、海流と風に乗った流氷上に羽根を休めている。こんな中に、1972年2月2日カラフトワシ2羽が弁財トンネル手前の林中で観察された。

四月も中旬になると渡りおくれた、オジロワシやオオワシの姿が1～2羽見られるが何んといつ

でもオオセグロカモメ、フルマカモメ、ウミアイサそれに遠来旅鳥ハシボソミズナギドリの大群が海上をジュータンが風に吹かれた時のように移動しているのが観察される。

ウトロは知床国立公園、海の玄関口であるが、冬は寒村と化しエトロフから渡ってくると言われるワタリガラスがカッポン、カッポンと鳴いている。漁港は夏季大量の観光客、船の出入などであり海鳥は入ってこないが、オオセグロカモメ、ユリカモメ、ミツユビカモメは常に見る事が出来る。冬季ウミスズメ、ミミカイツブリ、ハジロカイツブリ、コオリガモ、ヒメウ、クロガモ、ホオジロガモ、ピロードキンクロなどが結氷するまで出たり入ったりしている。

#### ④幌別～知床岬（海上海岸）

幌別海岸は流水期をのぞきカモメ科の海鳥の群が岩礁で見られる、ホロベツ川を境いに国立公園に入るが、カワガラス、ヤマセミが溪流沿いに飛び、マスやサケの狙上時期にはハシブトガラス、ハシボソガラス、トビが集まって産卵の終わった魚を突き廻している。幌別海岸より知床岬までは39 kmほどあるが特に幌別、岩尾別、イタシベツ、カムイワッカを経て、ウブシノツタ川口まで熔岩台地が続き、輝石安山岩が長い間荒波にけずり取られ、100m～200mの絶壁をつくり海蝕はところどころに大きな洞穴さええぐっている。

それらの洞穴はイワツバメの繁殖場となっておりその時期にはこの海岸一帯の上空はチリ、チリという鳴き声の飛びかう音とその様はウンカを思い出させる。そんな洞穴の上には小さな岩棚や草付があり、オオセグロカモメやウミウの大コロニーとなっておりところ狭しと巣を作り100～300対の規模になっている。こんなコロニーは年に数カ所増減あるものの13カ所ほどが数えられる。営巣場所は毎年同じ所かけられる場合と移動される場合とあるが原因はわからない。しかし大きなコロニーは移動はないようだ。8月も末になるとヒナは巣立ちオオナゴを追って海面に何千羽と浮んだり岩礁に羽根を休めている。又岩壁の割目には魚取りの名人ケイマフリが営巣する。赤い足をたくみに使いもぐり、口からあふれんばかりにオオナゴをくわえ、海面をはげしくけりながら飛び立って行きせまい割れ目に体をよじらせて入っていく。これらを見ていると何等危険はないようだが、常に安全とは言えない。

これらのコロニーの近くには日本最大の鳥オジ

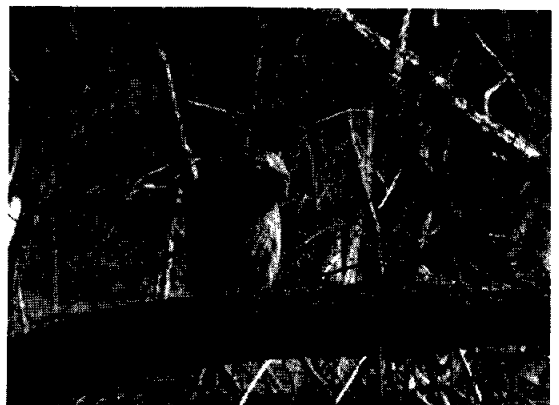
ロワシが生育しており、この時期には、抱卵中のウミウやオオセグロカモメを餌にしており一瞬間の内に捕獲、片足にぶらさげて飛び去るが、そのあとを何十羽もの親鳥が執ように追うが海面に血をたらし、ギヤギヤ鳴きながらもがいているも近くの樹か岩の上に下り羽根のまま嘴で引きちぎるようにして飲み込んでしまう。オジロワシの営巣場所は六カ所ほど知られているが、中々近づいて観察するのが大変である。

知床岬に近づくとも海上の流れが早くなり、ウミガラスやハシボソミズナギドリは海面すれすれに行き交っている。岬の岩礁にはハクセキレイが多く岩棚にはワタリガラスの巣がある。知床岬は海岸段丘で、海に面しているところは20m～40mの断崖によって囲まれ台地状の草原になっており、シマアオジ、ノビタキ、ノゴマ、ベニマシコ、マヒワ、アオジ、オオジュリンが背の高い草の幹を飛びかっている。知床燈台に登る坂道のやぶからトビツンカケタカ、トビツンカケタカとエゾセンニユウが鳴き、近くの林からクマガラのたたくドラミングが身近かに聞えてくる。

#### ⑤平野・山林

平野部は耕地、牧草地それを取り囲む防風保安林がある。平野部は特に防風保安林を中心に鳥相が集まり、種類と数も多くなる。アオジ、オオルリ、トラツグミ、クロツグミ、ヒヨドリ、カケスカラ類、それにキツツキ類も入り、エゾフクロウがこの中で見られるのは耕地などのネズミのせいだろう。チゴハヤブサは高い幹より甲高い声を上ている。

この地域は山林内とほとんど変わらない。市街地では街路樹や庭木の実をついばみにくる鳥としては、キレンジャク、ヒレンジャク、ウソ、シメ、



シマフクロウ（1972年4月）

ツグミ、ヒヨドリ、シジュウカラなどであるが、庭木などに営巣するものではカラフトカワラヒワ、ベニマシコ、シジュウカラなどがイチイや生垣などにつくる。

農村部では、それにオオルリ、キビタキ、カラ類が倉庫や牛舎の梁などに巣を作ることがある。平野部の河川はオオハクチョウ、マガモ、コガモ、カルガモ、カワアイサなどが入り込んでいる。こんな河川沿いをヤマセミがキョツ、キョツと鳴きながら岸辺の樹に止まり盛んに尾羽根をふっているのが見かけられる。平野部で特記しなければならないのは中斜里製糖工場、澱粉工場の排水溜池である。近年シギ、チドリの渡来地として注目され、種類、数も多い、キョウジョシギ、トウネン、キリアイ、ツルシギ、タカブシギ、キアシシギなどが排液の強臭にめげず、餌をついばんでいる。又カモ類も多く、ベニマシコの数も多い。今後観察を注ぎたい地域である。

1965年5月2日キンメフクロウが斜里営林署以久科苗圃で捕獲された。北方圏の鳥だがまれに渡来する珍鳥である。又斜里岳山麓に広がる一帯は根菜農業と牧草地であるが一部原始林のままのこされていることからクマゲラの音が聞こえてくる。アカシヨウビンが見られるのもこの一帯である。

1977年5月22日三井に親子づれのタンチョウが観察され部落を喜ばせた。農家の近くには声の

美しい鳥が見られ、コマドリ、キビタキ、オオルリ、ウグイス、アカハラなど居ながらにして聞ける。又土質的に火山灰地帯なため、土取場が各地にありその壁にはシヨウドウツバメが多数の穴をあけヒナを育てている。

山岳地帯ではピンズイが美しい声を聞かせるがハイマツ帯にはギアツ、ギアツとホシガラスがさわいでいる。オンネベツからチヤシコツにかけての山林はオジロワシ営巣地の一部になっているが近年伐採が進み、見る事が出来なくなった。幌別から岩尾別にかけても同様である。今観光の名所となっている知床5湖は水鳥の繁殖の場となっており、カイツブリ、キンクロハジロ、マガモ、などがヒナを連れている。又オシドリが見られるのは第5の湖で繁殖の可能性がある。

知床国立公園内はほとんど原生林で、クマゲラをはじめ、オジロワシ、オオタカなどが繁殖し、ルシヤ川流域にはシマフクロウが生育している。しかし砂防ダムの設置によりサケ マスの狙上が川口で押えられるためこれらの大型鳥は別の河に移動したのか観察が出来なくなった。知床岳山頂附近の池沼にトウネンを観察した時は驚いた。ピンズイ、アオジは陵線附近で見られた。

表1. 斜里町管内の観察鳥類リスト

科名	種名	季節変化												摘要
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
アビ	アビ					■								W 2
	オオハム				■									W 2
カイツブリ	カイツブリ					■	■	■	■	■	■	■	■	M 2
	ハジロカイツブリ												■	W 2
	ミミカイツブリ												■	W 2
	アカエリカイツブリ						■	■	■	■	■	■	■	M 3
ミズナキドリ	フルマカモメ					■	■	■	■	■	■	■	■	M 1
	ハシボソミズナギドリ					■	■	■	■	■	■	■	■	M 1
ウミツバメ	ハイイロウミツバメ	■												W 4
	コシジロウミツバメ						■							M 2
ウ	ウミウ			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	S 1
	ヒメウ	■				■	■	■	■	■	■	■	■	R 1
サギ	アマサギ							■						M 3
	アオサギ					■	■	■	■	■	■	■	■	M 1

科名	種名	季節変化												摘要
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ガンカモ	マンガン												■	M 3
	ビシクイ											■		M 3
	オオハクチョウ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	W 1
	コハクチョウ												■	W 3
	オシドリ							■	■	■	■	■	■	M 2
	マガモ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	R 1
	カルガモ	■			■	■	■	■	■	■	■	■	■	S-M1
	コガモ	■			■	■	■	■	■	■	■	■	■	S-M2
	ヨシガモ							■	■	■	■	■	■	M 2
	オカヨシガモ							■	■	■	■	■	■	M 2
	ヒドリガモ											■	■	M 1
	オナガガモ											■	■	M 2
	ハシビロガモ											■	■	M 2
	ホシハジロ								■	■	■	■	■	M 2
	キンクロハジロ	■			■	■	■	■	■	■	■	■	■	M 1
	スズガモ				■	■	■	■	■	■	■	■	■	M 1
	クロガモ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	M 1
	ピロードキンクロ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	W 2
	シノリガモ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	W 2
	コオリガモ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	W 2
ホオジロガモ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	W 1	
ミコアイサ			■										W 2	
ウミアイサ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	W 1	
ワシタカ	ミサゴ						■	■	■	■	■	■	■	M 3
	トビ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	R 1
	オジロワシ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	R2.W1
	オオワシ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	W 1
	オオタカ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	R 2
	ツミ							■	■	■	■	■	■	S 2
	ハイタカ						■	■	■	■	■	■	■	S 3
	ケアシノスリ	■												W 2
	ノスリ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	R 1
	クマタカ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	R 2
	カラフトワシ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	A 4
	ハイイロチュウビ											■	■	W 3
	チュウビ							■	■	■	■	■	■	M 3
ハヤブサ	シロハヤブサ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	W 3
	ハヤブサ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	R 3
	チゴハヤブサ						■	■	■	■	■	■	■	S 3
	コチョウゲンボウ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	W 3
	チョウゲンボウ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	W 3
ライチョウ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	R 1	
キジ	ウズラ							■	■	■	■	■	■	R 2
	コウライキジ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	R 2
ツル	ダンチョウ						■	■	■	■	■	■	A 3	

科名	種名	季節変化												摘要
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
クイナ	クイナ						■	■	■	■	■	■		S 3
	ヒメクイ							■						S 3
	バナ							■	■	■	■			S 3
	オオバン								■	■	■	■		S 3
チドリ	チドリ							■	■	■	■			M 2
	シロチドリ							■						M 1
	メダイチドリ								■		■			M 1
	ムナグロン						■			■				M 1
	ダイゼン							■		■	■		M 1	
シギ	キョウジョシギ						■					■		M 1
	トウネン						■				■	■		M 1
	ハマシギ						■				■	■		M 1
	オバシギ						■				■	■		M 1
	ミユビシギ						■				■	■		M 2
	キリシアギ						■				■	■		M 2
	ツルシギ						■				■	■		M 1
	アオアシシギ						■				■	■		M 1
	タカアシシギ										■	■		M 1
	キアシシギ											■	■	M 1
	イソシギ							■	■					M 1
	ヤマシギ							■	■	■	■	■		S 1
	オオジシギ							■	■	■	■	■		S 1
ヒレアシシギ	アカエリヒレアシシギ						■	■					M 1	
カモメ	ユリカモメ						■				■			M 1
	セグロカモメ						■					■		W 1
	オオセグロカモメ						■	■	■	■	■	■		R S.1
	ワシカモメ						■	■	■	■	■			W 2
	シロカモメ						■	■	■	■	■			W 2
	カモメ							■	■	■	■			W 1
	ウミネコ							■	■	■	■	■		S 2
	ミツユビカモメ							■	■	■	■	■		R 1
	アジサシ							■	■	■	■	■		M 1
	ヒメクビワカモメ						■							A 4
ウミスズメ	ウミガラス						■	■	■	■	■	■		M 2
	ケイマフリ						■	■	■	■	■	■		S 1
	マダラウミスズメ							■						W 3
	ウミスズメ							■	■	■	■	■		W 2
	エトロフウミスズメ						■					■	■	W 2
	コウミスズメ						■	■	■	■	■	■		W 1
	ウツウカ											■	■	M 3
エトピリカ							■	■	■	■	■		M 3	
ハト	キジバト						■	■	■	■	■	■		S 1
	アオバト						■	■	■	■	■	■		S 2
ホトトギス	カツコウリ							■	■	■	■	■		S 2
	ツツドリ							■	■	■	■	■		S 2

科名	種名	季節変化												摘要
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	ホ ト ト ギ ス													S 3
フクロウ	シロフクロウ													W 3
	シマフクロウ													R 4
	トラフズク													S 3
	コミミズク													W 2
	コノハズク													S 3
	オオコノハズク													S 3
	キンメフクロウ													W 4
	アオバズク													S 3
	エゾフクロウ													R 2
ヨタカ	ヨタカ													S 3
アマツバメ	ハリオアマツバメ													S 3
	キタアマツバメ													S 2
カワセミ	ヤマセミ													R 3
	カワセミ													S 2
	アカショウビン													S? 3
キツツキ	アリスイ													S 2
	ヤマゲラ													R 2
	クマゲラ													R 2
	エゾアカゲラ													R 2
	エゾオオアカゲラ													R 3
	コアカゲラ													R 2
	エゾコゲラ													R 1
ヒバリ	ヒバリ												S 1	
ツバメ	ショウドウツバメ													S 1
	ツバメ													M 3
	イワツバメ													S 1
セキレイ	キセキレイ													S 2
	ハクセキレイ													S 1
	セグロセキレイ													S 2
	ビーンズイ													S 1
ヒヨドリ	ヒヨドリ												W 2	
モズ	モズ													S 2
	アカモズ													S 3
	オオモズ													W 3
レンジャク	キレンジャク													W 1
	ヒレンジャク													W 3
カワガラス	カワガラス												R,S?1	
ミソサザイ	ミソサザイ												S? 2	
イワヒバリ	エゾカヤクグリ												S? 2	
ヒタキ	コマドリ													S 3
	ノゴマリ													S 2
	コルマリ													S 3
	ルリビタキ													S 2
	ノビタキ													S 1



科 名	種 名	季 節 変 化												摘 要
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	イソビヨドリ						■							S 3
	トラツグミ						■							S 3
	クロツグミ						■							S 3
	アカハラミ						■							S 1
	シロハラミ						■							M 2
	ツグミ	■										■		W 1
	ヤブサメ								■					M 3
	ウグイス								■					S 1
	エゾセンニュウ								■					S 1
	シマセンニュウ								■					S 1
	マキノセンニュウ								■					S 1
	コヨシキリ								■					S 1
	オオヨシキリ								■					S 3
	メボソムシクイ								■					M 3
	エゾムシクイ								■					S 2
	センドアイムシクイ								■					M 2
	キクイタダキ								■					S 2
	キビタキ								■					S 2
	オオルリ								■					S 2
	サメビタキ								■					S 2
	エゾビタキ								■			■		M 3
	コサメビタキ								■					S 3
エナガ	エナガ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	R 1
シジュウカラ	ハシブトガラ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	R 1
	コガラ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	R 1
	ヒガラ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	R 1
	ヤマガラ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	W 3
	シジュウカラ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	R 1
ゴジュウカラ	シロハラゴジュウカラ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	R 1
キバシリ	キタキバシリ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	R 2
メジロ	メジロ						■							M 3
ホオジロ	ホオジロ								■					S 2
	ホオアカ								■					S 2
	カシラダカ						■				■			M 3
	シマアオジ								■					S 2
	アオジ								■					S 1
	クロジ								■					S 3
	オオジュリン								■					S 2
	ユキホオジロ	■										■		W 1
アトリ	アトリ	■										■		W 1
	カラフトカワラヒワ								■					S 2
	マヒワ								■					S 3
	ベニヒワ	■										■		W 1
	ハギマシコ								■					W 2
	オオマシコ								■				■	W 3

科名		季節変化												摘要
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	ギンザンマシコ	██████████												S3, W2
	イスカ	██████████												W 3
	ナキイスカ	██████████												W 3
	バニマシコ	██████████												S 2
	ウソソ	██████████												R 1
	イカルメ	██████████												M 3
シ		██████████												W 2
		██████████												
ハタオドリ	ニュウナイスズメ	██████████												R 1
	スズメ	██████████												R 1
ムクドリ	コムクドリ	██████████												S 1
	ムクドリ	██████████												S 1
カラス	カケス	██████████												R 1
	ホシガラス	██████████												S ? 3
	ハシブトガラス	██████████												R 1
	ハシボソガラス	██████████												R 1
	ワタリガラス	██████████												W3, S4

3. 調査結果

「斜里町管内の観察鳥類リスト」について今回のまとめでは、45科210種であった、このリストアップされたものは本地区で筆者が観察し確認したもので、観察器機は主に双眼鏡で、プロミナーを併用した。表の摘要覧に使用した記号は下記のとおりである。

- R : 年間を通して見られる (留鳥 Resident)
- S : 繁殖のために来る (夏鳥 Summer visitor)
- W : 冬を越しに来る (冬鳥 Winter visitor)
- M : 春・秋の渡りの際見られる (旅鳥 Migration)
- A : 迷行して来たと思われる (迷鳥 Accidental visitor)

- 1 : 多い、もしくは普通
- 2 : 少ない
- 3 : 斜里管内では稀れ
- 4 : 日本でも稀れ

参 考 文 献

1. 犬飼哲夫 1954: 知床半島の動物、網走道立公園・知床半島学術調査報告P 64 ~66、網走道立公園審議会
2. 清棲幸保 1965: 日本鳥類大図鑑 I. II. III. 講談社
3. 高野季三 尾形真二、長尾章郎、1962: 知床半島学術調査報告第1報、知床半島の鳥類、帯広畜産大学
4. 日本鳥学会 1974: 日本鳥類目録 学習研究社